

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市崇仁市宮住宅塩小路高倉新	階数	地上8F
建設地	京都府京都市下京区小稻荷町22番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	185 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年9月 予定	評価の実施日	2013/10
敷地面積	1,798 m ²	作成者	東 浩平
建築面積	830 m ²	確認日	
延床面積	4,145 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

■建設 ■修繕・更新・解体 □通用 ○オンサイト □オフサイト

①参照値 100%

②建築物の取組み 71%

③上記+②以外の 69%

④上記+ 69%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>塩小路高倉ブロックのまちづくりで受け継がれてきたコンセプト「まち」、「ひと」、「くらし」を継承し、新たに「みらい」への視点を加えた計画としている。</p> <p>また、市営住宅としての要求水準(住宅性能表示制度による等級(以下、[]内)などを満足し、良好な居住環境を確保する。</p>	<p>その他</p> <p>発生材の再利用・再資源化(一部)</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>開口部・床等の遮音性能を確保[透過損失等級(外壁開口部)等級2][重量床衝撃音対策相当スラブ厚15cm以上]</p> <p>外壁の断熱性能を確保[省エネルギー対策等級3]</p> <p>F☆☆☆☆を採用[ホルムアルデヒド対策等級3]</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>共用・専用部分のバリアフリー化 [高齢者等配慮対策等級3(専用部)、4(共用部)]</p> <p>地域産木材の使用・内装計画に配慮した照明計画</p> <p>構造躯体の長寿命化 [劣化対策等級3]</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>勾配屋根や色彩等まちなみ・景観に配慮した形態・意匠利便性に配慮した集会室の配置</p> <p>ワークショップの実施による設計プロセスにおける入居予定者の参加</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>太陽光発電設備(10KW以上)・太陽光蓄電外灯による再生可能エネルギーの活用</p> <p>潜熱回収型給湯器・共用部分におけるLED照明器具の採用による省エネルギー化</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型機器の採用・雨水貯留タンクの設置による水資源の保護</p> <p>ノンフロンタイプ断熱材など汚染物質非含有材料の使用推進</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>透水性舗装・雨水浸透柵の採用による雨水流出の抑制</p> <p>利便性・安全性に配慮した駐車場・駐輪場を確保</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される